

菊池短歌会

1月詠草

蒼天に浮く綿雲に届かむか丘の上まで来てしまひたり
岩永 典子
九十八歳まさきく迎へし御恵に神前の鈴心よりふる
氏岡 百枝
聞き馴れぬ声と見上ぐる山茶花の枝を揺らして早や影はなし
梅野かをり
日溜りに白き山茶花咲き極む冬への讃歌掲ぐる如く
黒田 衣子
定年もなくて覚悟といふもなし老いて春への地下足袋洗う
竹野美智代
絮となり飛ぶこともなき泡立草 老軀のごとき姿を曝す
中原ちえ子
昇りくる端光を受け冴えざえと元朝の一步かりそめならず
中川 愛子
四季咲きの薔薇に会ひたり冬雲を透く日輪に見守られつつ
怒留湯健蓉
寄せられし新春のうた嵩おもし指あため入力すなり
村上 咲江
箱根路に新春迎う旅の宿 良き湯良き酒五感に沁みゆく
山内 直子



万句の里俳句会

1月句会

万両や心豊かに暮らさばや
光本とよいち
寒あやめ神意の色に深空かな
小山 照子
小鳥来る杜のつづきにある庭へ
田中 美智
待つほどに阿蘇外輪の初明り
吉井 綾子
所作一つひとつに射手の息白し
北村 君子
臘梅をくぐりて風の透きとほる
丸山美代子
麒麟にはもう見へてゐる春景色
岩木 敬治
一服をいただく床几寒牡丹
打出 貞
一身に日を受けてゐる冬桜
野中 公枝
冬霧の晴れて日の色空の色
服部 輝子
弓始しじま貫く音
田島 房子
威儀正す神の前なる謡初
加藤 妙子

肥後狂句桜会

例会入選句集より

嘘でしょう目こすって見る当たりクジ
小川 繁美
やっぱ好き ずぶ濡れなつてさすゴルフ
狩野 本六
春の香り 勿体つけて出す女将
高倉 新米
嘘でしょう さつき屋台で別れたつ
太田 雄三
やっぱ好き うなるこつ 銭ももつとらす
須藤 新生
嘘でしょう 四月馬鹿には騙されん
光堀 善教
どっちみち孫のでくつと許さなん
田中 孝幸
春の香り 宅配便が持って来た
荒木 玄海

せせらぎ俳句会

1月例会

凍土をガバと剥がして鉄始め
藤本 邦治
筆太に猪はみ出でし年賀状
服部 静子
煤払ひ最後に我が身はたきもし
五丁 義昭
萌え出でし千草の中の名草の芽
村山 数恵
虎落笛広告の旗ちぎれそう
藤本アツ子
風花の舞ひに心を踊らせて
内村 鈴子
蠟梅のひたすら香る佛の間
内村 泊虹
初日拜む熊本城に人群れて
坂本まつえ
初場所の行司の声の厨まで
寺本 和子
ろうばいの甘い香りがただよつて
(中一) 渡辺 一史
今朝もまた白くかがやく屋根の霜
(中二) 渡辺 大寿

肥後狂句水笑会

1月例会

通じんドラが一番出世した
英 坊
ぞうくるな俺も馬鹿じゃなかつばい
江 彩
通じん おしどり夫婦だった筈
三 水
情け無ア 人の名前が喉までで
三 代
引き合わん 銭出したしこ喰い切らん
五 女
ぞうくるな 見た目以上につえチーム
水 光

情け無ア 彼が泣き出す肝試し
そうくるな 寝なし稽古ばした祝辞

好 美 茶 由

七城短歌会

1月詠草

庭畑に程よく太りしブロッコリー夕餉の菜に穫る
堀 甲子
をためらう
早師走こもりて暮らす闘病の長くて短き一年が過ぎ
岩崎 清継
冬晴れに干しゐる洗濯物風に揺るるかくなる速さに眼病癒えぬか
岩崎 照代
テールを囲みて集う四世代曾孫の酌で屠蘇が始まる
吉間 充子
恙なく幸多かれと来し年賀状友にも負けじと今年を生きなむ
岩津 涼子
愛妻の看護が日課の弟が「料理も上手になった」と電話する
森 道子
療友の促しに立つ窓彼方新雪冠むる鞍岳見飽かず
木下 陽子
花の芽をつづる梅が枝に背を伸ばし吉のおみくじ
下川 つぎ
高く結びぬ
昇る日よしばしを止まれしらしらと目交うふるさと霜が輝く
斎藤 芳子

泗水短歌会

1月詠草

明日もあるモッコスがノミ投げ出アた
北村 竹刀
やっぱ好き ますます増ゆる植木鉢
藤由 藤紫
春の香り 鼻炎の俺にやのさん症
田尻 浩風
どっちみち 君が出らんと駒不足
安武 二山
霜枯れの烏瓜三ヶ梅ヶ枝に夏の日語る蔓のいくすじ
平嶋きくえ
三年連用日記ためらはず購入しもしや余白の有り得ることも
福原美智子
十一人うから揃ひて墓詣で元旦の陽の淡く射すなか
増田久美子
か
ほつほつと菜の花咲ける川の岸水鳥寄り添い朝を流れる
吉安 永子
桃色の一寸ほどの侘助が「はつ」とさせたり色の艶めき
内田つね代
鴨の朝の鋭き声透き通る天はあまねく青きひといろ
大島 ひと
世に生れて一度しか無き人生を楽しく生きん友は優しき
宮本 峯子
立ち枯れの竹の嘆きかかさこそと風の吹きたり流れるくさり
高藤タツノ
かずの子をプチプチ音たてゆつくりとゆつくり食めるベッドの夫
長尾はるみ

旭志文芸俳句会

1月詠草

冬うらら一年生の持久走
芹川のり子
幾日降る小雨の中を群千鳥
出田みどり
パソコンの夫万両に眼を休め
芹川 蓉子
寒釣りを眺めながめて通りけり
水谷 ミネ
裏年か木守柿など見当たらず
東 芳子
峡の村の「ほおずき灯や」暮の秋
中尾ヨシコ
銀杏葉ちらりちらりと舞つて散る
郷 ミヤ子

菊池市合同短歌大会 作品募集

新菊池市発足後はじめての合同短歌会を開催します。多数の皆さんの参加をお待ちしています。
と き 4月22日(日)
受付・午前11時30分/開会・午後0時30分
ところ 菊池市文化会館小ホール
選者 塚本 諄先生
応募方法 はがきに作品と住所・氏名・合同短歌会への出欠を明記し、次まで送付してください。応募作品は一人つき一首で、未発表のものに限ります。
応募締切 4月8日(日) 必着
会費 1,000円(当日受付にて)
表彰 選者選、互選とも天、地、人、佳作10首
※表彰者は合同短歌会への出席者に限ります。
主催 菊池市文化協会
問い合わせ・応募先 〒861-1311 菊池市赤星 1010
竹野美智代 ☎(24) 2029